令和８年度
北海道の専門高校の今を伝える
7S NEWS
セブンエスニュース
7つの専門（Senmon）高校
農業 工業 商業 水産 家庭 看護 福祉
令和８年（2026年）
第４号
11月２日
北海道教育庁学校教育局
高校教育課キャリア教育指導係

道内の７つの専門高校（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉）における、産業界と連携した人材育成の取組や、専門高校の魅力発信に係る特色ある取組、さらに、各学科の学習内容について広く発信します。

「さんフェア 2026」が開催されました

北海道産業教育振興会主催の、専門高校等の生徒による学習成果の祭典「さんフェア 2026」が、令和８年９月 26 日（土）に北海道庁赤れんが庁舎で開催されました。当日は全道各地から専門高校等の生徒が集まり、学科ごとの特色ある学習内容の紹介や実習体験、実習生産物の販売、意見体験発表や作品・研究発表など、多彩なイベントで盛り上がりました。


生徒開発商品等の販売
（商業部会）


苔テラリウムの製作体験
（農業部会）


生徒制作ドレスの展示
（家庭部会）


意見体験発表大会の様子


エアエンジン機関車の実演
（工業部会）


生徒作成 VR 空間の体験
（水産部会）


骨密度や血管年齢の測定
（看護部会）


作品・研究発表の様子

「専門高校 未来のしごとミーティング」の動画が公開されました

令和８年８月４日（火）～６日（木）に開催した、専門高校に対する理解促進及び進路選択における認知度の向上を図ることを目的としたオンラインイベント、「専門高校未来のしごとミーティング」の動画がインターネット上で公開されました。進路選択を考える小・中学生とその保護者の方はもちろん、各専門高校の取組に少しでも興味をもたれた方など、多くの方々に御視聴いただける内容となっております。





＜全体説明より抜粋＞

北海道 2040 年の就業構造推計の概要では、「余る仕事」と「足りなくなる仕事」がはっきり分かれる「ミスマッチ」が起こると考えられています。

（中略）

私たちの暮らしに直結する農業、建設、医療、介護といった「現場の仕事」を支える人材は、約 30 万人も足りなくなると言われています。これらのことから、専門的な技術を持つ人が求められています。

○全体説明及び各専門高校の説明は、こちらの Web ページから御覧ください。

アドバンスト・エッセンシャルワーカー育成の重要性や各専門学科の取組などについて、大変分かりやすく説明されています。
ぜひ御視聴ください！

各学科の特色ある学習内容の紹介（家庭科）

◎家庭科の学習内容と、実習の様子を紹介します

1　北海道の公立高校に設置された、３つの家庭に関する学科

(1) 江別高校　生活デザイン科

衣服や染織、インテリアなど暮らしを彩る知識や技術を学びます。被服製作技術検定の取得を通じて服作りを基礎から学ぶ服飾コースと、機織りや染色などの技術を学び作品制作を行う染織インテリアコースがあります。創造力や表現力を育み、自分のアイデアを形にするため、ファッションショーや地域連携活動に力を入れています。

(2) 当別高校　家政科

大学や短大と連携しながら保育について専門的に学ぶ“保育コース”と、「高校生カフェ」などの実践的な学びを通して、食事をトータルでプロデュースする力を養う“食物調理コース”があります。各種検定への挑戦や、地域・専門機関と連携した学びで、現場における実践力を育んでいることも、特色の１つです。

(3) 三笠高校　食物調理科

調理師免許取得をめざす“調理師コース”と、製菓衛生師免許取得を目指す“製菓コース”があり、様々な分野の経験豊富なプロフェッショナルから直接指導を受けられます。校地内に設けられた研修施設「ESSOR（エソール）」で、実際のレストランや洋菓子店のような実践的な実習が行われていることも、特色の１つです。

2　主な進路先

就職：ホテル、飲食店、製菓店、給食施設、食品製造、福祉施設、公務員など

進学：大学・短大（教育、服飾、栄養など）、専門学校（調理・製菓、保育など）



＜福祉施設でのファッションショー＞



＜リビングデザインの実習＞



＜保育園での実習＞



＜製菓コースの実習＞

3　家庭科の特色ある学び

家庭科では、自らの家庭生活の中から課題を発見し、課題解決に向けて主体的に計画を立てて実践する学習活動である、“ホームプロジェクト”に取り組んでいます。

令和８年７月下旬に岐阜県で行われた、全国高校家庭クラブ研究発表大会では、ペットを伴った避難訓練の実施やネコ用避難篭の作成など、災害に備えた家族と飼い猫の防災に関する実践研究を発表した江別高校生活デザイン科の生徒が、ホームプロジェクトの部で文部科学大臣賞（全国第一位）を受賞しています。



＜研究発表の様子＞

産学連携にかかる好事例の紹介

事例　古平栽培漁業実習場と産業界との連携　～小樽水産高校の事例～

古平栽培漁業実習場は、小樽水産高校の実習施設として、小樽市から北西に約 40ｋｍ離れた古平町に設置されています。本実習場には、海洋生物の飼育や観察に対応した栽培漁業実習棟や、48 名が宿泊できる実習宿泊棟、漁具制作や水産機器の保守管理等が学べる漁業実習棟、沖合に敷設された垂下養殖施設などがあり、昭和 47 年の開設から 50 年以上に渡り、主に栽培漁業科の生徒が、ホタテガイの養殖やウニの種苗生産などの実践的な学びを通して、栽培漁業の基本技術・応用技術を身に付けると共に、集団生活を送る中で職業人としての資質・能力を育んでいます。

古平栽培漁業実習場では、専門性を生かした企業連携にも積極的に取り組んでいます。令和７年からは、“北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト”の一環として、（株）海洋探査と連携した前浜の藻場再生事業をスタートさせました。この連携事業はプロジェクト終了後も継続しており、（株）ミツウマや東しゃこたん漁業協同組合、後志地区水産技術普及指導所等、連携の輪が広がっています。また、登別マリンパークニクスと連携して、生徒が実習の中で採集した生物を展示する取組なども行っています。

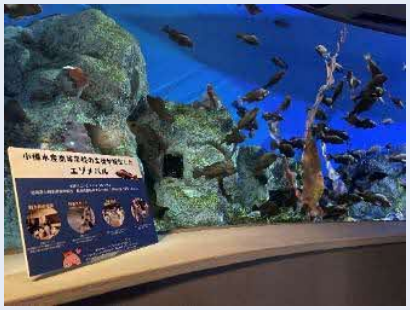
これらの小樽水産高校の取組は、従来の実習計画に組み込むことで、連携事業の継続性を図っている点が注目に値します。企業等の産業界と連携・協働した取組を通して、生徒たちは最先端の知識や技術を学ぶとともに、学校での学びがどのように社会で活用されているのかなど、多くの気付きを得ることができます。こうした体験的な学習によって、自己理解の促進や健全な職業観の醸成、学習意欲の向上などが期待でき、キャリア教育としても大きな意味をもちます。



＜施肥シートの加工に関する指導＞



＜養殖ロープに繁茂したコンブ類＞



＜生徒が採集した生物を展示する水槽＞